

藤沢市 令和2年度事務事業評価シート(令和元年度分)

No. 1

事務事業名	鶴沼地区まちづくり事業費										担当課	部課名	市民自治部鶴沼市民センター			
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	12	細目	002	説明	11	課等の長	山口 秀俊	電話	6297

1. 事業概要

事業開始年度	平成 23 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	地域主体のまちづくりを推進するため、地域の特性や個性を生かしながら、各地区でそれぞれの事業に取り組むもの。						
事業目的および必要性	地域主体のまちづくりのテーマ「緑と海と人が輝くまち『湘南ふじさわ鶴沼』を実現するため。地域力を生かした様々なまちづくり活動・事業を行うことにより、地域の特性に応じたまちづくり推進のため必要である。						
対象	1. 個人	市民(鶴沼地区)				56,952 人	
根拠法令等	その他(要綱等) 藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱						
事業実施手法(該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 ()						
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金 : 鶴まつり実行委員会)						
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020							
重点施策名				指針体系コード		その他の計画との関連	
コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進				4-3-151			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること			2.7 点	2.79 点	2.91 点	2.88 点	
			点	点	点	点	

令和元年度 支出済額 1,008 千円	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	報償費	496 千円	鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば講師謝礼
	需用費	204 千円	消耗品(鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば)
	使用料及び賃借料	1 千円	鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば有料道路・駐車場料金
	負担金補助及び交付金	307 千円	鶴まつり補助金
【参考】 令和2年度 予算額 2,133 千円	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報償費	892 千円	鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば講師謝礼
	需用費	456 千円	消耗品(鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば)
	委託料	465 千円	鶴沼郷土資料展示室企画運営業務
	使用料及び賃借料	4 千円	鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば有料道路・駐車場料金
	負担金補助及び交付金	316 千円	鶴まつり補助金

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
正規職員等	1.71	1.61	1.61	1.61
再任用短時・任期付短時職員	0.80	0.80	0.80	1.20
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	2.51	2.41	2.41	2.81

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

令和元年度 事業実施 内容	①鵜沼元気塾・鵜沼元気ひろば事業:小学校3年～6年生の放課後の居場所づくりとして、地域のボランティアスタッフが学習や様々な体験の機会を提供している。元気塾は毎週木曜日、元気ひろばは毎週月曜日のそれぞれ午後4時から午後5時30分まで。参加児童約40人。地域ボランティアスタッフ約15人。 ②鵜まつり事業:平成21年度から地産地消や地域資源の有効活用等を目的に八部公園で実施。飲食・物販店等39店、サークル団体のステージ出演15団体が参加。来場者数約18,000人。 ③認知症対策事業:認知症への理解・支援を深めるため。講演会や交流会等を実施。講演会は3回開催。交流会等(毎月実施)には、毎回20～30名が参加。						
	指標名	単位	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	備考
成果目標	鵜沼元気塾・元気ひろば受講児童数	人	30	30	30	30	
	鵜まつり来場者数	人	10,000	15,000	15,000	15,000	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	備考
	鵜沼元気塾・元気ひろば実施日数	日	83	81	81	79	
鵜まつり開催回数	回	1	1	1	1		
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	鵜沼元気塾・元気ひろば受講児童数	人	29	44	39	36	
鵜まつり来場者数	人	13,000	16,500	17,300	18,000		
数値で表せない効果							

4. コスト分析

年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
コスト	行政費用(フルコスト) A	20,386	18,536	19,282	21,195
	(1)現金を伴う支出 (千円)	20,441	19,278	19,455	21,181
	事業費(支出済額-②報酬合計)	958	896	1,163	1,008
	償還金利息	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	19,483	18,382	18,292	20,173
	①職員給与合計(常勤)	18,552	17,661	17,537	19,243
	②報酬合計(非常勤)	0	0	0	0
	③退職金相当額	931	721	755	930
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-55	-742	-173	14
	①減価償却費	0	0	0	0
	②退職給与引当金繰入額	-55	-742	-173	14
	③不納欠損額	0	0	0	0
	④その他()	0	0	0	0
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	0
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0	
③国庫支出金	0	0	0	0	
④県支出金	0	0	0	0	
⑤その他()	0	0	0	0	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0	
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	20,386	18,536	19,282	21,195	
分析指標	項目	13,000	16,500	17,300	18,000
	鵜まつり来場者数 F	単位 人	単位 人	単位 人	単位 人
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	1,568.15	1,123.39	1,114.57	1,177.50
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	47.96	43.36	44.91	48.94
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00	

※1 職員数・・・〔常勤〕一般職員、再任用職員、任期付職員、嘱託職員〔非常勤〕月額報酬の非常勤職員(一部日額報酬の非常勤職員を含む)
 ※2 人件費・・・〔常勤〕任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出〔非常勤〕月額報酬(一部日額報酬を含む)の年度合計額
 ※3 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成30年度末時点の課題	鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろば事業の活動拠点の拡大。
(2) (1)解決のための令和元年度の取組	活動拠点としては、鶴沼元気塾・鶴沼元気ひろばともに例年と同じ場所での活動となった。しかし、公民館サークルや中学校・高校・大学からのボランティアスタッフ等、様々な団体と関わる機会を通して、広い分野の学習の機会を持つことができた。
(3) 令和元年度末時点の課題	・年間活動内容の検討。 ・ボランティアスタッフ等の担い手づくり。
(4) (3)解決のための今後の取組	・ボランティアスタッフ募集の継続。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠		
	<input type="radio"/>	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	②事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)		
	<input type="radio"/>	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間		
	<input type="radio"/>	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…令和元年度支出済額	
		<input type="radio"/>	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	
		<input type="radio"/>	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合			
<input type="radio"/>		ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
2. 市民等サービス(その他)	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	各地域団体の構成員や地域ボランティアの高齢化が進み、今後の担い手不足が懸念されている。現役時代は仕事や家庭が優先されるため、地域活動への参加はあまり見込めない状況がある。一方で災害対応等のため、地域における人と人の絆やコミュニティの形成の必要性に対する認識は高まっていると思われる。	
	他市等の事例	
市民ニーズ	把握方法	地区全体集会, 参加者アンケート
	把握内容	地域での交流 安全安心のまちづくり 災害時の対応 ボランティアの育成
	対応等	多くの地域住民が参加・協力できる事業の実施。 地域団体との協働による防犯・防災・交流等に関する事業の実施。 ボランティアの継続的な募集。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	鶴沼地区郷土づくり推進会議委員を中心に、地区内の地域団体や個人のボランティアの協力を得て、地域独自のまちづくり事業を展開している。 各事業とも、地区内において広く認知されつつあり、参加者の評判も良い。	
	まちづくりテーマ	④ 健康で豊かな長寿社会をつくる
今後の方針	事業の方向性	現状維持
	子どもから高齢者まで、誰もが住みよい地域にするために、各委員とも精力的に活動しており、更なる発展・拡大も期待できる。今後も引き続き、地区内の団体等との連携をさらに進め、新たな分野の事業にも取り組んでいきたい。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
1	郷土づくり推進会議委員の選定について	無	無	1	1
2	郷土づくり推進会議の開催について	無	無	1	2
6	地域市民の相談及び要望の処理並びにこれらに係る連絡調整	無	無	3	3

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満, レベル2は10%以上30%未満, レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響, レベル2は部内への影響, レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	市民自治部	氏名	藤本 広巳	確認日	2020/8/18
----	-------	----	-------	-----	-----------